# カタールのシンボル、イスラム美術館今秋リニューアルオープン

カタール博物館(Qatar Museums：カタール ドーハ)は、この度、イスラム美術館（Museum of Islamic Art: MIA）の施設改良、常設展示室の一新と再展示が完了し、今年10月5日 に一般公開を再開することを発表しました。世界有数のイスラム芸術の殿堂であるMIAは、2022年FIFAワールドカップ・カタールの開催に合わせてリニューアルオープンします。常設展示室では、既存作品に加え、新たに収集された作品を含む1,000点以上の展示品が公開されます。

リニューアルオープン後間もなく、企画展『Baghdad: Eye’s Delight』（2022年10月26日 ～ 2023年2月25日 ）を開催します。この企画展は、アッバース朝（750-1258年）の首都であったバグダッドの伝統的遺産、また20世紀以降再び芸術、文化、商業の中心地として栄えた同都市の後世に残すべき遺産を紹介します。

今回のMIAのリニューアルオープンは、カタールの多様な文化活動を監修、促進、奨励し、カタールのクリエイティブ産業と国内外のオーディエンスを結び付ける、国家的な文化活動プロジェクト「カタール・クリエイツ（Qatar Creates）」の一環です。

2008年に開館したMIAは、世界的に名高いプリツカー賞受賞の建築家I.M.ペイ氏が設計し、カタール博物館議長
シェイカ・アル=マヤッサ・ビント・ハマド・ビン・ハリーファ・アル=サーニー(Sheikha Al Mayassa bint Hamad bin Khalifa Al Thani)

のリーダーシップの下にオープンした最初の施設です。ペイ氏の選定によりドーハのコーニッシュの埋立て人工島に建てられた同美術館は、イスラム芸術の道標であると同時に、過去と現在、東洋と西洋をつなぐ、国際的な対話と交流の場でもあります。

一新したコレクション
ギャラリーでは、わかりやすいガイドツアーや、展示作品の説明資料の他、家族連れや若年層の来館者のアクセシビリティ向上のため、新たにモバイル機器や子ども向けの資料を導入します。各ギャラリーは、歴史的・文化的テーマ、時代、地域ごとに構成され、伝統的なイスラム工芸を展示します。また新たに「東南アジアのイスラム」に関するスペースを設け、イスラム世界とそれ以外の世界の商品取引や思想の交流に関する展示を通じて、異文化のつながりに焦点を当てています。

シェイカ・アル=マヤッサ・アル=サーニーは、次のように述べています。「イスラム美術館の開館はカタールにとって変革の瞬間であり、新しい世界的な文化の発信地としてのカタールの存在感を示すとともに、この地域に大規模な博物館や美術館、文化施設の設立への道を拓くものでした。カタールの国民に当美術館を再発見してもらう機会を創出できたことを大変嬉しく感じていると同時に、ワールドカップの観戦にいらっしゃる旅行者の皆様にも、私たちの伝統と文化を表現するこの美術館を体験していただきたいと思います。」

MIA館長のジュリア・ゴンネッラ（Julia
Gonnella）博士は、次のように述べています。「この素晴らしい施設を次の章へと導いていけることを光栄に思います。今回の大規模な改装により、今後来館される皆様により有意義な体験を提供できるとともに、他に類を見ない卓越したコレクションを通じて、イスラム世界の豊かで遠大な歴史を感じていただくことができるでしょう。」

---

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com